

「2023年度 安全推進大会& SKYフォーラム」開催

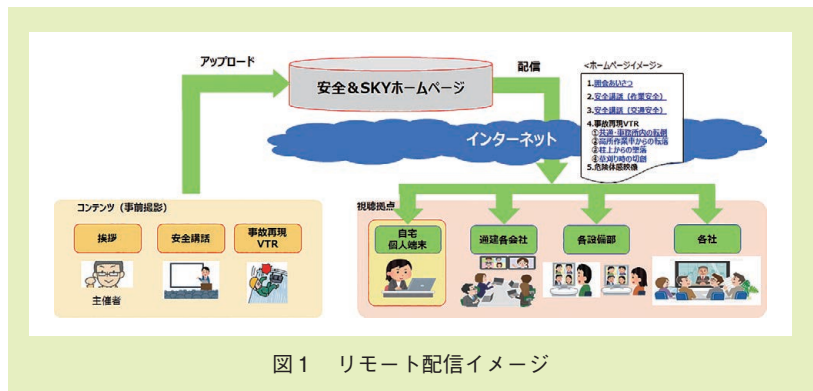
“「私たちは過去の事故を教訓に類似事故を絶対に起こしません」ヨシ!”

情報通信エンジニアリング協会 九州支部

1. はじめに

2023年12月4日（月）から2023年12月15日（金）まで、NTT西日本九州支店と一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会九州支部との共催により「2023年度 安全推進大会&SKYフォーラム」が開催されました。

今回は時間や場所に制約なく、より多くの方が参加できるリモート配信（図1・2）と集合による危険体感（図3）の開催となりました。



2. 大会プログラム

(1) 幹部挨拶

冒頭、NTT西日本九州支店 右田支店長（写真1）より、「最も優先すべきことはやはり安全です。今回の安全推進大会、SKYフォーラムにおいて、ぜひ、皆さんの安全意識のさらなる高揚と安全というのがやはり大切だという場にしていただきたい。そして、事故を防ぐためにお願いしたいことが3点あります。まず1つ目が決して手間を惜しまないことです。2点目はやはり安全が最優先です。自分の安全の確保、そして、仲間の安全の確保、これはぜひお願いします。3点目は仲間を守るための日頃からのコミュニケーションです。この3点に十分留意して安全活動に取り組んでいただきたい。

項目	実施概要
幹部挨拶	NTT西日本 九州支店 右田支店長 挨拶 情報通信エンジニアリング協会 九州支部 坂口支部長 挨拶
作業安全講話	テーマ：ヒューマンエラーの認知科学 講師：重森 雅嘉 様（静岡英和学院短期大学部 現代コミュニケーション学科 教授）
交通安全講話	テーマ：企業ドライバーのための交通安全 講師：野呂 康之 様（株式会社 山太一舎 代表取締役）
事故再現	九州で過去発生した人身事故の再現映像を視聴し要因分析と検証により、発生要因の理解を深めることで、社員一人一人が事故を自分事として捉え、日々の実行を考える契機とする。 ①バケット車からの墜落 ②電柱からの墜落 ③耐切創手袋効果の検証 ④身近な事故（濡れた廊下でスリッパ転倒、つまづき、階段踏み外しによる転落）
危険体感映像	過去にNTT作業で起こった事故の危険な状態を体感し、その模様を視聴する事により危険への感受性を高めてもらう。 ①屋根上作業（NTチャック・ラクボ） ②ワークポジショングロブ外れによる電柱からの墜落 ③脚立（梯子）の傾きによる墜落 ④飛来物による衝撃 ⑤引込線弛みによる地上高の低下
アンケート	アンケート記入

図2 大会プログラム

項目	実施概要
①屋根上作業	屋根上作業時の落下防止器具（ラクボ、NTチャック等）を体感
②WPグロブ外れによる電柱からの墜落	ワークポジショングロブのフックを誤ってカラビナ等に掛け、フックが外れ転落する危険を体感
③脚立（梯子）の傾きによる墜落	脚立（梯子）における接地面が滑り、脚立（梯子）上から転落する危険を体感 脚立接地面の一部がめり込みバランスを崩す、脚立閉き止めフックのかけ忘れに伴い、脚立が開きバランスを崩す状況を体感
④飛来物による衝撃	飛来物・落下物が頭部に落下した際の衝撃を体感
⑤引込線弛みによる地上高の低下	引込線の引留め部分での弛みによる垂れ下がり状態を体感
⑥VR体感	VR機器を使用し、様々な危険なシーンをバーチャルに体感（高所作業車傾き、柱上高所作業、クレーン荷上げ作業 等）

図3 危険体感プログラム

事務所や家から元気よく「行ってきます」と出て行った家族、仲間がそのまま元気よく「ただいま」と自宅や事務所に帰る、これは非常に当たり前のことだと思っています。この当たり前のことを当たり前にできるように安全を最優先に取り組んでいく、そういう気持ちを新たにすることを大会にさせていただきたい。」とのご挨拶がありました。

引き続き、一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会九州支部 坂口支部長（写真2）より、「日頃より、高い安全意識のもと業務に取り組んでいただき大変ありがとうございます。今年度の九州エリア管内の事故発生状況ですが、人身事故については、昨年7月に発生した長崎エリアにおける電柱からの墜落事故以降は重篤な事故は発生しておらず、安全基本動作の徹底はもとよりNWカメラの活用や安全パトロールの強化などを含めて、皆さんが一体となって安全強化に向けた取組みを徹底いただいている成果と考えています。設備事故については、電柱新設時における管路および地下光ケーブルの損傷が発生しています。設備事故発生により、NTT西日本様をご提供するサービスが途絶し、ご利用のお客様に多大なご迷惑をおかけします。お客様からの信頼の失墜につながることを改めて認識し、基本動作を徹底し、確実に慎重な対応をお願いします。何よりも最優先すべきことは安全です。皆さんが日々積み上げてきた信頼、自身の健康、家族の生活はほんの少しの不注意からすべて崩れてしまいます。他の職場で発生した事象を対岸の火事ではなく、自組織でも起こり得る事象として捉え、取組みに反映し、個人あるいはチームとしてさらなる安全意識の高揚に努め、不安や危険を感じたら独自で判断せず立ち止まる、相

談することを徹底していただきたいと思えます。今後も事故防止に向けて、皆さん一丸となって取り組んでまいりましょう。」と挨拶がありました。

(2) 作業安全講話

静岡英和学院短期大学部 現代コミュニケーション学科教授の重森雅嘉様（写真3）に『ヒューマンエラーの認知科学』と題して、ヒューマンエラー、特にうっかりミスによって生じる事故について、ヒューマンエラー発生メカニズムやその防止を考えるための知見を心理学、もしくは認知科学の視点からご講演いただきました。

(3) 交通安全講話

株式会社 山太一舎 代表取締役 野呂 康之様（写真4）に『企業ドライバーのための交通安全』と題して、交通事故原因の4割を占める歩行者の飛び出し、増加している自転車の事故について、人間の能力の限界を認識し、安全を考えるきっかけとしての基本知識をご講演いただきました。

(4) 事故再現

過去に発生した事故やヒヤリハット事例について再現し、原因および対策映像等から再発防止を呼びかけるとともに、身近な職場や作業等でも起こりうる事例について紹介し、1人ひとりが自分事として考え、行動することの必要性を確認しました。

① バケット車からの墜落

バケット車での作業中、通行車両（第三者）がSDワイヤを引っ掛け、その反動でバケット部から投げ出されて墜落した死亡事故の再現映像により、事故原因と事故対策を紹介しました（写真5）。



写真1 右田 聖秀 様 ご挨拶



写真2 坂口 隆富美 様 挨拶



写真3 重森 雅嘉 様



写真4 野呂 康之 様

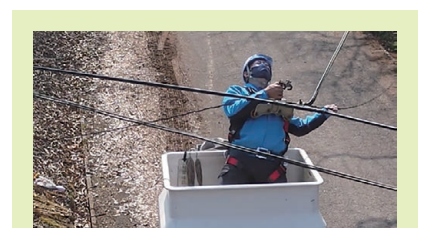


写真5 バケット車からの墜落

② 電柱からの墜落

昇柱作業において、フルハーネスの胴ベルトD環に取り付けた工具袋に誤ってワークポジショニングロープのフックを掛けたために、工具袋のフックが破断し墜落した事故の再現映像により、墜落に至る要因と正

しい作業手順を紹介しました（写真6）。

③ 耐切創手袋効果の検証

敷地内の草刈り作業を実施していた際に誤って左手親指と人差し指を鎌で切り負傷した事故の再現映像により、事故のポイントと正しい作業手順を紹介しました（写真7）。

④ 身近な事故（濡れた廊下でスリップ転倒、つまづき、階段踏み外しによる転落）

転倒事故の中で一番多い、歩行中の転倒事故の再現映像により、転倒パターンと危険ポイントおよび防止ポイントを紹介しました（写真8～10）。

3. 危険体感プログラム

危険体感は、NTT博多ビル東館2F（写真11）において、集合で、2023年12月4日（月）から2023年12月8日（金）の5日間、午前と午後の2回、計10回開催され、合計約200名（ITEA九州支部からは約50名）が参加しました。

（1）屋根上作業

屋根上作業で使用する落下防止用器具（NTチャック（窓枠固定金具）、ラクボ（屋根上墜落防止器具））を使用し、屋根上への昇降を体感する（写真12）。

（2）ワークポジショニングロープ外れによる電柱からの墜落

フルハーネスの胴ベルトD環付近に取り付けた工具袋やカラビナに誤ってワークポジショニングロープのフックを掛けたため、ワークポジショニングロープに荷重をかけ、工具袋のフックやカラビナが破断した際の墜落を体感する。本体感においては、工具袋やカラビナの代わりにD環に結束バンドを取り付け、そこ

にワークポジショニングロープのフックをかけて、ワークポジショニングロープに荷重をかけ、結束バンドを切断し、ワークポジショニングロープ外れによる墜落を体感する（写真13）。

（3）脚立（梯子）の傾きによる墜落

脚立を開き、梯子として使用した際にバランスを崩したり、立て掛け角度不良により、梯子が不意に滑る

体感（写真14）と脚立の設置場所が軟弱地盤等により、脚立が傾くことを体感する（写真15）。

（4）飛来物による衝撃

上部からの飛来・落下物の衝撃と保護帽の重要性を体感する。本体感においては、保護帽を被り、高さ約3mからドライバー、分線金物等を落下させ、衝撃を体感する（写真16・17）。



写真6 電柱からの墜落



写真7 耐切創手袋効果の検証



写真8 滑り



写真9 つまづき



写真10 踏み外し



写真11 危険体感会場
(NTT博多ビル東館2F)



写真12 屋根上作業



写真13 WPロープ外れによる電柱からの墜落

(5) 引込線緩みによる地上高の低下

引込線垂れ下がりによる第三者加害事故を教訓に、手元から引込線が緩んだ際の地上高の変化を体感する。本体感においては、スパン約30mの引込線を手元で50cm緩めた場合の地上高の変化（最下点で約150cmの地上高が低下）を体感する（写真18）。

(6) VR体感

VR機器を使用して、鉄塔、電柱、

梯子、脚立からの転落、高所作業車傾き、柱上高所作業等のさまざまな危険シーンや衝撃をバーチャルに体感する（写真19）。

4. 通信建設会社開発品展示

危険体感会場では各通信建設会社の開発品の展示が行われました（写真20）。

〈各通信建設会社の展示品〉

- 西部電気工業株式会社

- ・ドリル用粉塵カップ
- ・光ドロップケーブル対照器
- ・可とう管カッター
- 株式会社SYSKEN
 - ・改良型シャトルライナー
 - ・電柱運搬時歯止め
- エクシオグループ株式会社
 - ・色別スリングベルト
 - ・ツイストクランプメーター



写真14 梯子の滑り



写真15 脚立の傾き



写真16 飛来物衝撃1



写真17 飛来物衝撃2

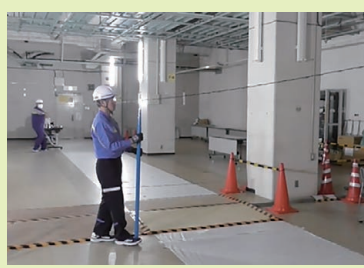


写真18 引込線緩みによる地上高の低下



写真19 VR体感



写真20 通信建設会社開発品展示